

## CIEC 第 67 回研究会報告

テーマ: e-learning システムの開発と教育実践  
日時: 2007 年 3 月 31 日(土)10 時 00 分～16 時 30 分  
場所: 大学生協会館 201-203 会議室  
司会: 上村隆一(北九州市立大学)、野澤和典(立命館大学)  
講師: 宮岸尉子(アドビシステムズ社認定エキスパート)  
参加人数: 44 名(午前・午後の延べ人数、講師および研究発表者を含む)

CIEC 10 周年記念事業の一環として、3 月 30 日(金)に開催された記念シンポジウムの後を受け、3 月 31 日(土)に大学生協杉並会館を会場として、第 67 回研究会「e-learning システムの開発と教育実践」が開催された。全国各地から参加した 27 名を対象に、午前中のワークショップは、アドビシステムズ社認定エキスパートの宮岸尉子氏より Acrobat 8 Professional の最新機能が紹介された。参加者の約 1/4 ほどが事前にソフトウェアのインストールをしてこなかったこともあり、アシスタント 1 名が机間巡視しながら、随時手助けをし、プログラムのインストールとサンプル・データのコピーをした後で実際のワークショップが開始された。

前半はチュートリアルスタイルで、まず始めに Acrobat とは何かという観点から基本的な機能および新規機能をデモンストレーションしながら概説した。Microsoft Office との相性がさらに強化されことを強調しながら、Word を使った例を示し、PDF Maker を使い、変換過程を実践し説明した。次に、複数のファイルを結合して、単一の PDF ファイルを作成したり、PDF ファイルから他のファイル形式に書き出したりする過程を説明した。サンプルとして提供されたデータ・ファイルが参加者全員にコピーされた後、レビューと注釈の機能について、サンプル・ファイルに様々な変更を加えながら、それらの主たる特徴を実際に参加者たちと一つひとつ確認しながら説明した。さらに、セキュリティ機能について、署名スタンプと電子署名の違いを力説しながら、その利用方法を概説した。



ワークショップ後半では、実際にフォームの作成方法について、サンプル・ファイルを利用して、参加者に分かりやすくデモンストレーションをしながらアンケート作成・変更などを実践し、注意すべき点も促しながら丁寧に説明した。そして、最後にムービー・クリップを取り込んで、PDF 化する方法も説明し、教育現場で有効な多機能な利用方法を示してくれた。時間の関係で、Web 会議利用などを含め、すべての機能をカバーした訳ではなかったが、Acrobat 7 Professional/Standard と Acrobat 8 Professional/Standard の違いを踏まえながら、使用頻度の高い基本的な機能を中心に、集中的に研修できたことは、大変有意義であった。



昼食休憩後は、会場のレイアウトを変更し、各 3 つのプロジェクタとスクリーンを壁側に並べ、2 セッションに分けたポスター発表へ移行した。当初の計画では、各セッション時間内に自由訪問スタイルによるポスター発表の予定であったが、参加者からの要望により、その予定を急遽変更し、一人 20 分を基本としたプレゼンテーションと質疑応答のスタイルに変えた。前半セッションでは3つ、後半セッションでも3つの発表があった。各発表は熱のこもったものばかりで、その後活発な質疑応答が行われた。前半セッションの最初は、愛媛女子短期大学(現東海大学)の森田直樹氏が「キー操作可視化システム」の題で、コンピュータ操作演習において、学習者に講師が行ったキー操作を可視化し提供することで、教育効果の向上を目指すための Visual C によるプログ



ラムの紹介であった。サンプルは <http://pubweb.cc.u-tokai.ac.jp/pubmorita/>を参照されたい。2 つ目は早稲田大学の原田康也氏が「大学英語学習者のプロフィールと発話データの収集」の題で、早稲田大学法学部 1 年生の英語による自己表現力と対人折衝力の向上を目指す実践授業での発話データの収集について、データ収集風景を理解できる録画ビデオで紹介しながら報告した。参考資料として、原田ほか (2007)、「学習者プロフィールに基づく学習者音声コーパス構築を目指して」情報処理学会研究報告 2007-CE-88 (24)、19-176 を参照されたい。

3 つ目は、朝日大学大学院生の藤沢大氏が「学校教育における Web ページの蓄積、オンデマンド利用に関する著作権情報を管理するシステム」の題で、既存の著作権管理での問題点を指摘し、学校教育現場で合法的な情報蓄積をして、有効活用する著作権情報管理システムの提案をした。





後半セッションの最初は、武蔵工業大学の吉田邦子氏が「環境英語を学ぶ e ラーニング教材-環境 e-lan (elan-e)」の題で、e ラーニング教材開発プロジェクトで作成された Reading と Listening からなるコースウェア(<http://www.yc.musashi-tech.ac.jp/~elan-e/>)について紹介された。2 つ目は、大阪教育大学大学院 2006 年度修了生の鍛冶大佑氏が「コンピュータ教材 CET (Cyber English Teacher)とのチーム・ティーチング形式による小学校英語活動に関する実証研究」の題で、小学校 5 年生を対象として楽しく英語が学べることを主眼とした補助教材として開発したマルチメディア教材の紹介をした。そして最後に立命館大学大学院 2006 年度修了生の小川恵子氏が Flash を使って開発した教材の紹介を指導教員である筆者が「英語自主学习のための中学生向けマルチメディア教材 (Virtual Homestay Program) の開発」の題のもと代行発表し、その理論的背景とコースウェアの概要を紹介した。開発された教材オンライン・バージョン(<http://www.tell.is.ritsumeai.ac.jp/kew/>)は公開されており、誰でも利用できる。



発表者 5 名や CIEC 関係者なども含め、のべ総数 44 名が参加し、研究会スタイルとしてはややユニークなワークショップとポスター発表から成る研究会であったが、盛会であった。

(文責：野澤和典)